

NEJM 勉強会 2015 年度第 7 回 6 月 25 日 A プリント 担当：石沢千尋

Case 6-2015 A 16-Year-Old Boy with Coughing Spells

N ENG J MED 372;8 NEJM.ORG February 19, 2015 pp.765-773

【患者】 16 歳男性

【主訴】 咳発作

【現病歴】

・熱や悪寒を伴わない咳と鼻づまりの持続が現れる 3 週間前までは健康。フェクソフェンタジン服用するも改善なし。症状出現の 3 日前に、咳嗽後の嘔吐と呼吸困難を伴う激しい咳発作により夜間目覚めた。両親に連れられ救急外来受診。

【診察所見】

窮迫所見なし。BT37.0°C, BP152/87, HR107, RR18, SpO2 100%(ambient air), 口腔咽頭後部の粘膜は敷石状、口蓋垂正中、扁桃浮腫、浸出液なし。鼻づまり、鼻粘膜の漿液性浸出液が明らかに見られる。聴診所見は肺音清

⇒上気道の咳症状を伴うアレルギー性鼻炎と診断され、フルチカゾンプロピオン酸の鼻スプレーとベンゾナテート 200mg/day が処方された。

↓↓↓↓

・その翌日も咳が続いたものの登校。その夜、10 分持続する激しい咳嗽により目覚める。2 回の嘔吐を伴った。他の病院の救急科へ。咳の間に鼻出血あり。窒息様に見える。頭痛、聴診所見、胸痛、腹痛、下痢便秘なし。

【診察所見】 外見良好。

バイタル…BP 右腕 140/79, 左腕 119/72, HR83, BT36.5°C, SpO2 99%,

胸音…右側肺の呼吸音減弱、対側は正常。40 分間咳なし。

【既往歴】 高血圧（収縮期血圧）、BMI が 94 パーセントイルと高い。

【服薬歴】 なし

【アレルギー歴】 なし

【社会生活歴】 機会飲酒、喫煙。性交歴なし。

【家族歴】 父親：高血圧、母親：癌の化学療法中。患者の症状が始まる前に始まり、4週間乾性咳嗽が続いた。

胸部読影画像所見…正常。

【ワクチン接種歴】 幼少期に DTaP, B 型インフルエンザ 4 回、HBV3 回、MMR2 回接種済み。11 歳と 16 歳で髄膜炎ワクチン、11 歳で Tdap ワクチン、16 歳で HPV ワクチンを接種済み。

【血液検査所見】

WBC8200(正常 4500~13000), 好中球 46.1%(40~62), リンパ球 42.6%(27~40), 単球 8.9%(4~11), 好酸球 1.6%(0~8), 好塩基球 0.6%(0~3), ヘマトクリット、ヘモグロビン、血小板値正常。